目　　次

Syllabus

開講科目一覧…… 3
アクティブラーニング要素表…… 7

〔令和3年度入学生〕

【共通科目】

教養基礎演習（教養基礎演習Ⅰ）…… 9
情報技術（情報技術Ⅰ）…… 12
ビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）…… 15
ビジネスワード（情報技術Ⅲ）…… 18
ビジネスパワーポイント（情報技術Ⅳ）…… 21
心理学…… 24
異文化と世界…… 30
ボランティア論…… 36
キャリア形成Ⅰ…… 39
キャリア形成Ⅱ…… 42
ビジネスマナー（秘書技能）…… 45
運動と健康…… 48
標準英語スキルズ（英語コミュニケーションⅠ）… 51
英会話…… 57

【家政科コア科目】

家政学概論…… 60
食生活論…… 63
衣・住生活論…… 66
家族関係学…… 75

【生活デザイン専攻科目】

［基礎科目］

生活デザイン概論…… 84
調理学…… 87
社会福祉概論…… 90
アパレル素材・管理学…… 93
グラフィックソフト実習…… 96
マーケティング概論…… 99

［プロダクトデザイン］

テキスタイルデザイン実習Ⅰ
（ファッション造形実習Ⅰ）…… 111
アロマテラピー概論…… 120
アロマテラピー演習…… 123
工芸実習（工芸実習Ⅰ）…… 126
店舗空間デザイン演習…… 129
調理学実習…… 132
食べ・ストラテデザイン実習…… 135
製菓製パン実習Ⅰ…… 138
製菓製パン実習Ⅱ…… 141

［コミュニケーションデザイン］

ファッション販売演習…… 153
フードデザイン・マネジメント論…… 159
フードプランニング論…… 162
レストランサービス論…… 168
医療事務サービス論（医療事務）…… 180
医療事務サービス演習…… 183
サービス英語コミュニケーション…… 186

【食物栄養専攻科目】

解剖生理学Ⅰ…… 195
解剖生理学Ⅱ…… 198
生化学…… 204
食品学総論（食品学Ⅰ）…… 210
食品学各論（食品学Ⅱ）…… 213
食品材料学実験…… 219
食品衛生学…… 222
食品衛生学実験…… 225
基礎栄養学（栄養学Ⅰ）…… 228
応用栄養学Ⅰ（栄養学Ⅱ）…… 231
応用栄養学Ⅱ（栄養学Ⅱ）…… 234
臨床栄養学（臨床栄養学Ⅰ）…… 243
調理学…… 267
調理学実験…… 270
調理学実習Ⅰ…… 273
給食計画・実務論Ⅰ（献立作成論）…… 279
給食計画・実務論Ⅱ…… 282
給食計画・実務論実習Ⅰ…… 285
給食計画・実務論実習Ⅱ（給食管理実習Ⅰ） 288
栄養士数学演習a …… 294
栄養士数学演習b …… 297
基礎調理学実習…… 300
フードコーディネート論…… 315
フードデザイン・マネジメント論…… 159
フードプランニング論…… 162
栄養士実力養成演習Ⅰ…… 321

【支援科目】
生活数理演習…… 327
英語基礎演習 a…… 330
英語基礎演習 b…… 333

【支援講座】
医療事務支援講座Ⅰ…… 336
医療事務支援講座Ⅱ…… 336
情報技術活用講座…… 337
ファッション資格対策講座…… 337

〔令和2年度入学生〕
【共通科目】
ビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）…… 15
ビジネスワード（情報技術Ⅲ）…… 18
ビジネスパワーポイント（情報技術Ⅳ）…… 21
現代日本の社会問題…… 27
日本国憲法と法律（日本国憲法）…… 33
ビジネスマナー（秘書技能）…… 45
応用英語スキルズ（英語コミュニケーションⅡ）… 54
英会話…… 57

【家政科コア科目】
妊娠・出産・保育の科学…… 69
家庭経営学…… 72
介護概論…… 78
消費生活と環境…… 81

【生活デザイン専攻科目】
［基礎科目］
食品衛生学…… 102
食文化論…… 105
カラーコーディネート演習…… 108
［プロダクトデザイン］
テキスタイルデザイン実習Ⅱ（工芸実習Ⅱ）… 114
ファッション造形実習（ファッション造形実習Ⅱ）… 117
介護食実習…… 144
デジタルデザイン演習…… 147
商品開発・企画演習・…… 150
［コミュニケーションデザイン］
インテリアコーディネート演習…… 156
フードコーディネート実習…… 165
レストランサービス実習…… 171
福祉住環境コーディネート概論…… 174
ユニバーサルデザイン概論…… 177

【食物栄養専攻科目】
公衆衛生学…… 189
社会福祉概論…… 192
解剖生理学実験…… 201
運動生理学…… 207
食品科学実験（食品学実験Ⅰ）…… 216
応用栄養学実習Ⅰ（栄養学実習）…… 237
応用栄養学実習Ⅱ…… 240
臨床栄養学実習（臨床栄養学実習Ⅰ）…… 246
臨床栄養学実習Ⅱ…… 249
栄養指導論Ⅰ…… 252
栄養指導論Ⅱ…… 255
栄養指導論実習Ⅰ…… 258
栄養指導論実習Ⅱ…… 261
公衆栄養学…… 264
調理学実習Ⅱ…… 276
校外実習（給食管理実習Ⅱ）…… 291
食品加工学実習（食品学実験Ⅱ）…… 303
食品の官能評価・鑑別論…… 306
フードスペシャリスト論…… 309
フードマーケティング論…… 312
フードコーディネート実習…… 165
食文化論…… 105
栄養統計学演習…… 318
栄養士実力養成演習Ⅱ…… 334

【支援講座】
医療事務支援講座Ⅰ…… 336
医療事務支援講座Ⅱ…… 336
情報技術活用講座…… 337
ファッション資格対策講座…… 337

令和3年度　開講科目一覧

生活デザイン専攻

対象年次		授業科目 1年次	授業科目 2年次	読み替え科目 ( )内対象入学年度	担当者	開講期間 前・後	Page
共通科目		教養基礎演習		教養基礎演習Ⅰ(2018)	中野都、渡辺淳、江木伸子、パッケ伊東、平尾和子	前	9
		情報技術		情報技術Ⅰ(2018)	准教授 前田康智	前	12
		ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術Ⅱ(2018)	准教授 前田康智	後	15
		ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術Ⅲ(2018)	准教授 前田康智	後	18
		ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術Ⅳ(2018)	准教授 前田康智	後	21
		心理学			非常勤講師 原島雅之 非常勤講師 佐久間直人	前	24
			現代日本の社会問題		教授 渡辺淳	前	27
		異文化と世界			教授 渡辺淳	後	30
			日本国憲法と法律	日本国憲法(2018)	非常勤講師 友寄隆信	前	33
		ボランティア論			教授 中野都	前	36
		キャリア形成Ⅰ			准教授 小田島祐美子	前	39
		キャリア形成Ⅱ			准教授 前田康智	後	42
		ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能(2018)	准教授 三星沙織	前	45
		運動と健康			非常勤講師 佐藤久乃	後	48
		標準英語スキルズ		英語コミュニケーションⅠ(2019)	教授 渡辺淳 非常勤講師 リチャード・オステン	後	51
			応用英語スキルズ	英語コミュニケーションⅡ(2019)	教授 渡辺淳	前	54
		英会話	英会話		非常勤講師 リチャード・オステン	前	57
家政科コア科目		家政学概論			非常勤講師 木林祥子	前	60
		食生活論			准教授 三星沙織	前	63
		衣・住生活論			准教授 畑久美子 非常勤講師 山村美保里	前	66
			妊娠・出産・保育の科学		客員教授 岩倉弘毅 非常勤講師 川上美子	前	69
			家庭経営学		非常勤講師 木林祥子	後	72
		家族関係学			教授 渡辺淳	後	75
			介護概論		教授 中野都	前	78
			消費生活と環境		教授 渡辺淳	後	81
専攻科目	基礎科目	生活デザイン概論			准教授 畑久美子	前	84
		調理学			教授 平尾和子	前	87
		社会福祉概論(生デ)			教授 中野都	前	90
		アパレル素材・管理学			准教授 畑久美子	後	93
		グラフィックソフト実習			教授 パッケ伊東	後	96
		マーケティング概論			教授 パッケ伊東	後	99
			食品衛生学		教授 江木伸子	前	102
			食文化論		講師 米山陽子	前	105
			カラーコーディネート演習		准教授 畑久美子	前	108
	フ゜ロタ゛クトテ゛サ゛イン	テキスタイルデザイン実習Ⅰ		ファッション造形実習Ⅰ(2019)	非常勤講師 秋山敦子 非常勤講師 木林祥子	前	111
			テキスタイルデザイン実習Ⅱ	工芸実習Ⅱ(2019)	准教授 畑久美子	前	114
			ファッション造形実習	ファッション造形実習Ⅱ	准教授 畑久美子	前	117
		アロマテラピー概論			非常勤講師 久保田裕子	前	120
		アロマテラピー演習			非常勤講師 久保田裕子	後	123
		工芸実習		工芸実習Ⅰ(2019)	非常勤講師 本郷芳哉	後	126
		店舗空間デザイン演習			教授 パッケ伊東	後	129
		調理学実習			講師 米山陽子	後	132
		食べ・ストラテデザイン実習			教授 パッケ伊東	前	135
		製菓製パン実習Ⅰ			非常勤講師 森崎繭香	前	138
		製菓製パン実習Ⅱ			講師 米山陽子	後	141
			介護食実習		准教授 小田島祐美子	前	144
			デジタルデザイン演習		教授 パッケ伊東	前	147
			商品開発・企画演習		平尾、伊東、畑、米山、秋山、木林、本郷、森崎	後	150
	コミュニケーション テ゛サ゛イン	ファッション販売演習			准教授 畑久美子	後	153
			インテリアコーディネート演習		非常勤講師 山村美保里	後	156
		フードデザイン・マネジメント論			非常勤講師 米山陽子	後	159
		フードプランニング論			非常勤講師 森崎繭香	後	162
			フードコーディネート実習		非常勤講師 佐野雅	前	165
		レストランサービス論			非常勤講師 真島久美	後	168
			レストランサービス実習		非常勤講師 真島久美	前	171

生活デザイン専攻

対象年次		授業科目 1年次	授業科目 2年次	読み替え科目 ( )内対象入学年度	担当者		開講期間 前・後	Page
専攻科目	コミュニケーション・デザイン		福祉住環境コーディネート概論		非常勤講師	山村 美保里	前	174
			ユニバーサルデザイン概論		准教授	畑 久美子	後	177
		医療事務サービス論		医療事務(2018)	非常勤講師	内藤 麻紀	前	180
		医療事務サービス演習			教授	中野 都	前	183
		サービス英語コミュニケーション			非常勤講師 非常勤講師	リチャード・オステン 江口 眞由美	後	186
支援科目		生活数理演習		生活数理演習Ⅰ(2018)	准教授	前田 康智	前	327
		英語基礎演習a			教授	渡辺 淳	前	330
		英語基礎演習b			准教授	前田 康智	前	333
支援講座		医療事務支援講座Ⅰ	医療事務支援講座Ⅰ		准教授	前田 康智	前	336
		医療事務支援講座Ⅱ	医療事務支援講座Ⅱ		教授	中野 都	後	336
		情報技術活用講座	情報技術活用講座		准教授	前田 康智	前後	337
		ファッション資格対策講座	ファッション資格対策講座		准教授	畑 久美子	前後	337

令和3年度　開講科目一覧

食物栄養専攻

対象年次	授業科目 1年次	授業科目 2年次	読み替え科目 ( )内対象入学年度	担当者	開講期間 前・後	Page
共通科目	教養基礎演習		教養基礎演習Ⅰ(2018)	中野都、渡辺淳、江木伸子、パッケ伊東、平尾和子	前	9
	情報技術		情報技術Ⅰ(2018)	准教授 前田康智	前	12
	ビジネスエクセル	ビジネスエクセル	情報技術Ⅱ(2018)	准教授 前田康智	後	15
	ビジネスワード	ビジネスワード	情報技術Ⅲ(2018)	准教授 前田康智	後	18
	ビジネスパワーポイント	ビジネスパワーポイント	情報技術Ⅳ(2018)	准教授 前田康智	後	21
	心理学			非常勤講師 原島雅之 非常勤講師 佐久間直人	前	24
		現代日本の社会問題		教授 渡辺淳	前	27
	異文化と世界			教授 渡辺淳	後	30
		日本国憲法と法律	日本国憲法(2018)	非常勤講師 友寄隆信	前	33
	ボランティア論			教授 中野都	前	36
	キャリア形成Ⅰ			准教授 小田島祐美子	前	39
	キャリア形成Ⅱ			准教授 前田康智	後	42
	ビジネスマナー	ビジネスマナー	秘書技能(2018)	准教授 三星沙織	前	45
	運動と健康			非常勤講師 佐藤久乃	後	48
	標準英語スキルズ		英語コミュニケーションⅠ(2019)	教授 渡辺淳 非常勤講師 リチャード・オステン	後	51
		応用英語スキルズ	英語コミュニケーションⅡ(2019)	教授 渡辺淳	前	54
	英会話	英会話		非常勤講師 リチャード・オステン	前	57
家政科コア科目	家政学概論			非常勤講師 木林祥子	前	60
	衣・住生活論			准教授 畑久美子 非常勤講師 山村美保里	前	66
		妊娠・出産・保育の科学		客員教授 岩倉弘毅 非常勤講師 川上美子	前	69
		家庭経営学		非常勤講師 木林祥子	後	72
	家族関係学			教授 渡辺淳	後	75
		介護概論		教授 中野都	前	78
		消費生活と環境		教授 渡辺淳	後	81
専攻科目		公衆衛生学		非常勤講師 菅野公司	前	189
		社会福祉概論(食栄)		教授 中野都	後	192
	解剖生理学Ⅰ			非常勤講師 古谷彰子	前	195
	解剖生理学Ⅱ			非常勤講師 古谷彰子	後	198
		解剖生理学実験		非常勤講師 古谷彰子	後	201
	生化学			教授 江木伸子	後	204
		運動生理学		非常勤講師 菅野公司	後	207
	食品学総論		食品学Ⅰ(2019)	教授 江木伸子	前	210
	食品学各論		食品学Ⅱ(2019)	准教授 三星沙織	後	213
		食品科学実験	食品学実験Ⅰ(2019)	教授 江木伸子	前	216
	食品材料学実験			教授 江木伸子	前	219
	食品衛生学			准教授 三星沙織	前	222
	食品衛生学実験			准教授 三星沙織	後	225
	基礎栄養学		栄養学Ⅰ(2019)	非常勤講師 古谷彰子	前	228
	応用栄養学Ⅰ		栄養学Ⅱ(2019)	非常勤講師 古谷彰子	前	231
	応用栄養学Ⅱ		栄養学Ⅱ(2019)	准教授 小田島祐美子	後	234
		応用栄養学実習Ⅰ	応用栄養学実習(2019)	准教授 小田島祐美子	前	237
		応用栄養学実習Ⅱ		准教授 小田島祐美子	後	240
	臨床栄養学		臨床栄養学Ⅰ(2019)	准教授 小田島祐美子	後	243
		臨床栄養学実習	臨床栄養学実習Ⅰ(2019)	准教授 小田島祐美子	前	246
		臨床栄養学実習Ⅱ		准教授 小田島祐美子	後	249
		栄養指導論Ⅰ		准教授 神田聖子	前	252
		栄養指導論Ⅱ		准教授 神田聖子	後	255
		栄養指導論実習Ⅰ		准教授 神田聖子	前	258
		栄養指導論実習Ⅱ		准教授 神田聖子	後	261
		公衆栄養学		准教授 小田島祐美子	前	264
	調理学			教授 平尾和子	前	267
	調理学実験			講師 米山陽子	前	270
	調理学実習Ⅰ			准教授 三星沙織	後	273
		調理学実習Ⅱ		教授 平尾和子	後	276

食物栄養専攻

対象年次	授業科目 1年次	授業科目 2年次	読み替え科目 ( )内対象入学年度	担当者		開講期間 前・後	Page
専攻科目	給食計画・実務論Ⅰ		献立作成論(2019)	准教授	神田 聖子	前	279
	給食計画・実務論Ⅱ			教授	中野 都	後	282
	給食計画・実務論実習Ⅰ			准教授	神田 聖子	前	285
	給食計画・実務論実習Ⅱ		給食管理実習Ⅰ(2019)	教授	中野 都	後	288
		校外実習	給食管理実習Ⅱ(2019)	教授	中野 都	後	291
	栄養士数学演習a			准教授	前田 康智	前	294
	栄養士数学演習b			教授	渡辺 淳	前	297
	基礎調理学実習			准教授	三星 沙織	前	300
		食品加工学実習	食品学実験Ⅱ(2019)	准教授	三星 沙織	後	303
		食品の官能評価・鑑別論		講師	米山 陽子	前	306
		フードスペシャリスト論		教授	江木 伸子	後	309
		フードマーケティング論		教授	江木 伸子	前	312
	フードコーディネート論			講師	米山 陽子	前	315
		フードコーディネート実習		非常勤講師	佐野 雅	前	165
	フードデザイン・フードマネジメント論			講師	米山 陽子	後	159
	フードプランニング論			非常勤講師	森崎 繭香	後	162
		食文化論		講師	米山 陽子	前	105
		栄養統計学演習		准教授	前田 康智	前	318
	栄養士実力養成演習Ⅰ			教授	江木 伸子	後	321
		栄養士実力養成演習Ⅱ		教授	江木 伸子	後	334
科目支援	英語基礎演習a			教授	渡辺 淳	前	330
	英語基礎演習b			准教授	前田 康智	前	333
支援講座	情報技術活用講座	情報技術活用講座		准教授	前田 康智	前後	337

アクティブ･ラーニング要素表

<table>
<tr><th>要素番号</th><th>手法</th><th>概要</th><th colspan="2">アクティブ・ラーニング科目を構成する際の留意事項</th></tr>
<tr><td>【1】</td><td>Problem Based Learning, Project Based Learning</td><td>Ｐｒｏｂｌｅｍ Ｂａｓｅｄ Ｌｅａｒｎｉｎｇとは、問題解決を主目的として、学習者主体で実践されるグループ学習である。Ｐｒｏｊｅｃｔ Ｂａｓｅｄ Learningとは、具体的な学修課題をたてて、一人ないしチームでプロジェクトを遂行しながら行う学習である。いずれも学生が自主的に学修することが求められる。</td><td colspan="2">「ペア・グループワーク」や「プレゼンテーション」等と組み合わせて実施することが想定される。学生が主体となり課題を解決する方法を考え、計画を立てて学修を進めるという、初年次の学生にとっては比較的高度な学修法ともいえるので、課題レベル設定や適切な学修支援（チューターによる補助など）に配慮が必要である。ポートフォリオの利用も考えられる。</td></tr>
<tr><td>【2】</td><td>クリッカーを用いたレスポンス</td><td>教員の質問に対し、学生がクリッカー（情報送信機）のボタンを押して答える形態である。レスポンスシステムとも呼ばれる。その結果が瞬時に集計され、スクリーンに表示される。学生は自らの意見の正誤や他の学生の意見を即時に知ることができる。意思表示を手軽に行えるので、授業への参加意欲が促される。</td><td colspan="2">教員は学生の全体的な反応を確認しながら授業を進めることができる。しかし、クリッカーはアクティブ・ラーニング化を支援するシステムなので、他の手法と組み合わせるなど、主体的な学修を促進するような授業設計をする工夫が必要となる。</td></tr>
<tr><td>【3】</td><td>調査研究</td><td>教員が提示したテーマや課題に対して、図書館等で参考図書、新聞・雑誌、統計資料を調べたり、ＤＶＤ映像やインターネットのメディアを活用して情報収集を行い、結果をまとめ、発表する学習方法である。</td><td colspan="2">単にレポートを課すだけでは、アクティブ・ラーニングとはいえない。学生によるプレゼンテーションへつなげたり、フィードバックを行ったりして、調査情報の質を高めたり、調査の成果を用いながら、学生がさらに学修を深めていく工夫が重要となる。</td></tr>
<tr><td>【4】</td><td>フィールド・ワーク</td><td>教員が提示したテーマや課題に対して、実施調査・研究等を行う学習方法である。</td><td colspan="2">学修課題をフィールド・ワークに取り組み、学習者が実施での活動を行い、学修課題についての理解を深めることが必要である。</td></tr>
<tr><td>【5】</td><td>実験</td><td>理論や仮説を様々な条件の下で検証する学習方法である。学生が知識を活かして実際に行動することによって理解を深めると同時に、結果を整理してまとめる力を身につけることが期待される。</td><td>教養教育で準備できる範囲の部屋や器具類で実施計画を立てること。実験を通して主題に対する探求を深めていくことが大切である。実験自体は主体的な活動ではあるが、実験の事前教育、実験過程での学習者の主体的・能動的な取り組みへの指導が必要である。</td><td rowspan="2">特に自然科学系分野では、設定された課題について、学生が（協力して）自らの活動を通じて解決したり、講義で学んだ原理や現象を、学生自身が追体験して確認する要素が含まれていることが重要である。
したがって、単に計測器の取扱い法等について学ぶような実験・実習はアクティブ・ラーニングとはならない。</td></tr>
<tr><td>【6】</td><td>実習</td><td>講義などで学んだ技術や方法等を実際の場面で展開することで、理論と実践の関係を深める学習の方法である。学生が実践的な力量をつけるとともに、実践を理論的に省察すること、そのことでさらに実践力や課題への取組みの姿勢の向上が期待される。</td><td rowspan="2">実習・実技は必ずしも、単純にアクティブ・ラーニングとはならない。講義等での学修内容・知識と、実習・実技で身につける知識・技能とが有機的に結びつく必要がある。</td></tr>
<tr><td>【7】</td><td>実技</td><td>技術や演技などが直接的な学習であるような授業方法。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【8】</td><td>ロール・プレイング・シミュレーション</td><td>現実に起こる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）する学習法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。</td><td colspan="2">ロールプレイやシミュレーションを取り入れるためにはその事柄に対する知識・理解が必要。教員による適切な場面の設定と、役割分担を話し合い等を通して決めるなど、学生相互の関わりも重要になる。</td></tr>
</table>

【9】	ペア・グループワーク	教員から与えられた課題に対して、ペアもしくは小グループ（３人から６人程度が一般的）で相互協力を行いながら学修を進めていく協同学習のことである。グループ構成員が相互協力して共同作業をする。	作業手順の明確化、課題解決への探求方法や手がかりをどのように準備するかが重要になる。円滑なペアワークやグループワークを行うために、協同学習の考えを取り入れながら授業の準備や設計を行うことが望まれる。学習者が明確な役割を持って学修を進められるような課題の設定をし、また互恵的な協力関係を生み出せるよう人間関係に配慮することが必要である。グループワークは必ず授業時間内に終了することが必要である。
【１０】	ディベート	課題討議法の一種で、ある公的なテーマについて肯定側と否定側の立場から、立論・反論といった論戦を通じて、第３者を客観的な証拠に基づいて説得するｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ形態である。ディベートを通して、自分の意見や問題意識を持ったり、論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。	多数の受講者を一括した討議は一般的とは言えない。討議の成果が可能な授業設計が必要である。小グループで交代しながら討議を繰り返す場合には、それ以外の学生が果たす役割を明確にしておく必要がある。成績評価方法についても明確にし、予め受講者に示しておくことも重要である。また、テーマの難易度が高すぎる場合にはうまく機能しないことのあるため、教員は進行をよく観察し、時には介入することも必要である。学生同士で議論させる機会を作るだけではなく、議論を行うための知識や経験を持たせた上でお互いの考えを深めたり、議論の結果としてテーマに関する学修を深める意欲につながったりするように、授業を設計する必要がある。
【１１】	ディスカッション	グループでの討議・話し合い。学生同士の相互の意見交換を通して、各人の持つ知識・経験などが共有され、討議課題への理解が深まることが期待される。自由討議法は、内容も役割も自由に議論することになる。	
【１２】	プレゼンテーション	指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習を行い、聴衆の前で発表す形態。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものや、ポスターセッションなど様々である。発表後は他の受講者や教員からの質疑に応答する。	プレゼンテーションの回数と成績評価方法を予め明確にしておく必要がある。プレゼンテーションをする学生と聞く学生の学修課題の明確化、評価基準の明確化が必要である。プレゼンテーションを聞くことが、学び合いにつながるように、質疑応答の時間を十分に確保すること、プレゼンテーション後に各学生が何を学んだかをふり返る機会も設けることなども考慮することが重要である。
【１３】	輪読学習	書物を数人が順番に読んで解釈し、問題点について論じ合う学習方法である。一般的には、書物をいくつかの部分に分け、それぞれ担当者に割り当て、担当者はその部分の論点をまとめ、授業で発表する。それを受けて、分からなかった部分や疑問点などについて、各自の見解を論じ合う。	単純に学生に書物の部分を割り振り、発表させるのではなく、教員側では論じ合う問題点や解釈を適宜チャネリングすることも必要である。輪読する書物の選択は十分な考慮を必要とする。受講者数を考えた授業設計は必要であり、例えば５０名の受講者なら、発表者が５名で、１０回で全員が担当する場合には、各回で残りの４５名が何をするのかを、全員の学習機会の保証という視点で考えておく必要がある。またそれに伴なった成績評価方法も必要である。
【１４】	双方向型問題演習	与えられた課題やテーマについて学生が答案やレポート・小論文を作成し、それを教員が添削・採点してフィードバックしたものを、再度学生が確認し理解を深める学習方法である。教員とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝをとることにより、学修意欲を引き出すねらいもある。学生は自らの理解度を確認し、新たな気づきや課題を見いだすことが期待される。	学生の能動的な学修をひきだすところにねらいがある。出題した課題の解答例や解説を示すとともに、双方向演習としてのフィードバックが不可欠となる。
【１５】	双方向型執筆演習		
【１６】	振り返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、確認テスト（小テスト)、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。	学生は、講義を聞いただけ、体験しただけでは、次の機会に学修内容を応用できない可能性があり、学修内容や自らの言動を振り返る機会を設けることが有効であるという考え方に基づく。振り返りを促すための支援方法が重要であり、単に振り返るだけでなく、その後の主体的（能動的)学修へつなげることが重要である。
【１７】	体験型学習	教員による講義等を中心とする授業形態ではなく、学外機関・企業等における体験学習を中心とする、インターンシップ、サービス・ラーニング、ボランティア活動などが挙げられる。	学外における体験活動等を完結するだけではアクティブ・ラーニングとはならない。事前準備・指導、体験活動・事後指導・展開等を通して主体的な学修に要する総学修時間の確保が不可欠である。活動期間中における受け入れ先の評価と併せて、事前事後の取組状況を加味して評価を行うことが重要である。また、成績評価法の明確化が必要である。

gbbs.admb.ibaraki.ac.jp/pdf/ActiveLearningElements.pdf

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
生活数理演習 （生活数理演習Ⅰ）	―	生デ	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔生デ〕	入学準備学習の数学試験で基準点を超えられなかった者	6・7

実務経験のある教員による科目

該当なし

授業の概要

本演習は、家政専攻科目における必須知識、特に最重要とされる数学・科学的知識に焦点をあてて、ものの長さ・面積の測り方、重さ・容積の量り方、濃度、希釈に関する考え方などについて、細かい手先の作業や科学実験を通じて繰り返し練習し、他の専攻科目への導入とする。

到達（成績評価A）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、完全にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識を総合的に活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、総合的に実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

(1)デザイン画の型切りについて、手先を使った細かい作業を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(2)衣食住に求められる基本的な測量と測定を繰り返し練習し、基本的にできるようになる。【DP1:知識・技能】
(3)衣食住に不可欠な測量と測定に関する数学的・科学的な基礎知識をある程度活用できるようになる。【DP1:知識・技能】
(4)応用的な測量と測定への思考力を養成し、ある程度実行できるようになる。【DP1:知識・技能】

教科書

なし（毎回資料を配布する）

参考書・資料

なし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

授業の後半で解説し、授業中にできるだけ解決できるようにする。

履修上の注意・備考・メッセージ

・授業回によっては、被服室と実験室を使い分けて行う。
・毎回演習課題を課す。
・14回目の授業では実技試験を行い、筆記試験対策を行う（学修成果確認のための試験では筆記に関する試験を行う）。

成績評価方法	成績評価基準
受講態度(20%) 課題提出(20%) 実技試験(30%) 筆記試験(30%) の総合評価	S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム（https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/）に掲載されています。必ず確認をしてください。

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
生活数理演習 （生活数理演習Ⅰ）	―	生デ	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	単独

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔生デ〕	入学準備学習の数学試験で基準点を超えられなかった者	6・7

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	ガイダンス、生活数学1/型切り練習1	被服実習室の利用、生活に関する大きい数字、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 30分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
2	生活数学2/長さを測る、線を引く	生活に関する小さい数字、長さの単位の理解、竹定規で長さを測る、直線を引く	
	事前学習 60分	大きい数字、カッター、はさみの使い方を確認する	
	事後学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
3	生活数学3/物を分ける/型切り練習2	生活に関する長さ等の等分、等分にする練習、はさみ、カッターを使い、型切りの練習を行う	
	事前学習 60分	小さい数字、長さの単位、定規の使い方を確認する	
	事後学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
4	生活数学4/マイナスと金額計算/図形の描画1	生活に関するマイナスとお金の計算、図形を描く練習	
	事前学習 60分	等分に長さを分ける方法を確認する	
	事後学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
5	生活数学5/倍・分割と金額計算/図形の描画2	生活に関する倍・分割とお金の計算、平行垂直を描く練習	
	事前学習 60分	マイナス、お金の計算、図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
6	生活数学6/概数とつり銭の計算/図形と模様切り練習1	生活に関する概数とおつりの計算、多角形作成と細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	
	事前学習 60分	倍、分割とお金の計算、各種図形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
7	生活数学7/割合とグラフ/図形と模様切り練習2	生活に関する割合の計算、グラフ描画、多角形作成と細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	
	事前学習 60分	概数とおつりの計算、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	割合の計算とグラフ描画、多角形の作成の方法を確認する	
8	スプーン、カップで容積を測る/模様切り練習1	容積の単位の理解、液体個体のかさを量る、スプーンの使い方、細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	
	事前学習 60分	割合の計算とグラフ描画、多角形の作成の方法を確認する	
	事後学習 60分	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する	
9	ハカリで重さを量る/模様切り練習2	重さの単位の理解、電子上皿天秤で液体と固体の重さを量る、細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	
	事前学習 60分	容積の単位と計量スプーンの使い方を確認する	
	事後学習 60分	重さの単位と重さの量り方を確認する	
10	水溶液とは、食塩水濃度の計算/模様切り練習3	水溶液の理解、食塩水の濃度の計算、細微な模様切り（はさみ、カッターの練習）	
	事前学習 60分	重さの単位と重さの量り方を確認する	
	事後学習 60分	水溶液、濃度の計算について確認する	

11	食塩水濃度と洗剤濃度の計算 /模様切り練習4	食塩水の濃度と洗剤(液体・粉末)濃度の計算、細微な模様切り(はさみ、カッターの練習)	
	事前学習 60分	水溶液、濃度の計算について確認する	
	事後学習 60分	濃度の計算について確認する	
12	生活数学8,9/長さを決められた比で分ける	生活に関する比例と比の計算、比で分ける、はさみで切る 時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、割引と割増、家計簿)	
	事前学習 60分	濃度の計算について確認する 比例と比の計算、比で分ける方法について確認する	
	事後学習 60分	比例と比の計算、比で分ける方法について確認する、時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、割引割増、家計簿の各計算について確認する	
13	生活数学10/希釈の計算、電卓計算	生活に関する計算（郵便料金、住居の広さ、電気料金）、希釈の理解、調味料等による希釈の計算、電卓計算	
	事前学習 60分	時刻と時間の計算、速さ、平均、身体計測、気象、 買物の割引と割増、家計簿の各計算について確認する	
	事後学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
14	学修成果確認のための試験	全体の振り返り、測量と測定の実技試験及び筆記試験	
	事前学習 60分	希釈、電卓計算の方法について確認する	
	事後学習 60分	電卓計算の方法について確認する	

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英語基礎演習a	―	共通	1年 前学期	演習	1	渡辺（わたなべ）　淳（じゅん）	クラス 分け

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔共通〕	英語基礎演習ａクラスに該当する者	6・7,16

実務経験のある教員による科目

該当なし

授業の概要

本演習は、入学時の試験成績によりクラス分けされた上位者を対象とし、1年次後学期に開講される卒業必修科目でやはり学力レベルによってクラス分けされる「英語コミュニケーションⅠ」の上位クラスで学習するために必要な基礎事項を、文法を中心に、コミュニケーションに必要な事項とともに学習する。

到達（成績評価A）目標

・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力をかなり修得する。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり修得できている。【DP1：知識・技能】
・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を相当程度修得している。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】

教科書

大坂 四郎：『First Steps to English Grammar』 南雲堂（2006）¥2,090　標準英語スキルズと同じ

参考書・資料

必要に応じてプリントを配布する。CD,DVDを使用する。

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

毎回課題を与え、板書を利用しつつ、解説する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・遅刻・私語厳禁。
・積極的な参加が求められる。
・必ず英和及び英和辞典を持参する。

成績評価方法	成績評価基準
取組姿勢　(25%) 小テスト　(30%) 学修成果確認のための試験　(45%) の総合評価	S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム（https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/）に掲載されています。必ず確認をしてください。

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英語基礎演習a	―	共通	1年 前学期	演習	1	渡辺（わたなべ）　淳（じゅん）	クラス 分け

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔共通〕	英語基礎演習ａクラスに該当する者	6・7,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	be動詞、一般動詞、文の種類	be動詞、一般動詞、疑問文	
	事前学習 5分	シラバスの該当ページを読む	
	事後学習 30分	課題の演習	
2	特殊な文	Ther is～構文、命令文	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
3	時制(1)	未来形、進行形	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
4	時制(2)	現在完了	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
5	代名詞・助動詞・受動態・比較(1)	代名詞・助動詞	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
6	代名詞・助動詞・受動態・比較(2)	受動態・比較	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
7	準動詞(1)	不定詞	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
8	準動詞(2)	分詞・動名詞	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
9	節(1)	接続詞	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	
10	節(1)	関係代名詞	
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する	
	事後学習 30分	課題の演習	

11	熟語、it	熟語、it
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する
	事後学習 30分	課題の演習
12	会話表現	会話表現
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する
	事後学習 30分	課題の演習
13	TOEIC、就職試験等への準備	応用演習
	事前学習 15分	テキストの指定されたページを予習する
	事後学習 30分	課題の演習
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験
	事前学習 80分	全体の学習内容を振り返り、学び全体を確認する。
	事後学習 30分	学びの足りない部分を確認し、今後の英語学習のための心の準備をする。

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英語基礎演習b	―	共通	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	クラス 分け

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔共通〕	英語基礎演習bクラスに該当する者	6・7,16

実務経験のある教員による科目

該当なし

授業の概要

本演習は、入学時の試験によりクラス分けされた、基礎英語の再復習を要するクラスのための授業として、基礎文法に焦点をあて、多くの問題を与え、繰り返し学習する。

到達（成績評価A）目標

・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を十分に修得する。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力をかなり修得する。【DP1：知識・技能】

単位取得（成績評価C）目標

・「標準英語スキルズ」で必要とされる基礎的な文法力がかなり修得できている。【DP1：知識・技能】
・「標準英語スキルズ」で必要とされる、コミュニケーションに必要な基礎力を相当程度修得している。【DP1：知識・技能】
・基礎的な文法力を土台にした読解力をある程度修得している。【DP1：知識・技能】

教科書

大坂四郎：『First Steps to English Grammer カレッジ英文法入門』 南雲堂（最新版)¥2,090

参考書・資料

なし

教科書以外にかかる費用(自己負担)

特になし

課題に対するフィードバック

教科書の練習問題はほぼ全てを授業中に受講学生に順番に課し、一問ずつ答えてもらう。その答えの正否と模範解答をその場で黒板に清書しながら解説する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・単元によってレポートを課す。
・必ず辞書を持参すること。

成績評価方法	成績評価基準
授業中の態度(20%) レポート(30%) 学修成果確認のための試験(50%) の総合評価	S(100-90点)：到達目標を超えたレベルを達成している A(89-80点)：到達目標を達成している B(79-70点)：到達目標と単位修得目標の間のレベルを達成している C(69-60点)：単位修得目標を達成している D(59-0点)：単位修得目標を達成できていない Z：受験資格失格

※授業のスケジュールは、HP在学生の方へ→カリキュラム（https://www.aikoku-jc.ac.jp/student/）に掲載されています。必ず確認をしてください。

科　目　名	必修・選択	対象者	開講時期	授業	単位	担 当 教 員	形態
英語基礎演習b	―	共通	1年 前学期	演習	1	前田（まえだ） 康智（やすとも）	クラス 分け

科目区分	履修条件	AL
支援科目〔共通〕	英語基礎演習bクラスに該当する者	6・7,16

授業のスケジュール

回	項　　目	内　　容	担当者
1	be動詞・現在形(1)	主語と動詞、名詞の単数形と複数形、am、is、areの使い分け	
	事前学習 5分	シラバスを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書6ページについて復習する	
2	be動詞・現在形(2)	be動詞のある文の疑問文、否定文	
	事前学習 60分	教科書7ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書8,9ページについて復習する	
3	一般動詞・現在形(1)	一般動詞の使い方、一般動詞のs	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書10ページについて復習する	
4	一般動詞・現在形(2)	一般動詞の疑問文とその答え方、一般動詞の否定文	
	事前学習 60分	教科書11ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書12,13ページについて復習する	
5	多様な疑問文	疑問詞の使い方、疑問詞who、whose、where、when、orのある疑問文	
	事前学習 60分	教科書15ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書14～17ページについて復習する	
6	be動詞・過去形(1)	wasとwere、過去形と一緒に使われる語句	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書18ページについて復習する	
7	be動詞・過去形(2)	疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書19ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書20,21ページについて復習する	
8	一般動詞・過去形(1)	規則動詞、不規則動詞、疑問文とその答え方	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書22ページについて復習する	
9	一般動詞・過去形(2)	否定文、疑問詞のついた過去形の疑問文	
	事前学習 60分	教科書23ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書24,25ページについて復習する	
10	特殊な文(1)	There（is）are～の文、There（was）were～の文、命令文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書26ページについて復習する	

11	特殊な文(2)	否定の命令文、感嘆文	
	事前学習 60分	教科書27ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書28,29ページについて復習する	
12	未来形(1)	willの用法、未来形の疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書30ページについて復習する	
13	未来形(2)／進行形	be going to～、現在進行形、過去進行形、疑問文とその答え方、否定文	
	事前学習 60分	教科書31,35ページを読んでくる	
	事後学習 60分	教科書32,33,34～37ページについて復習する	
14	まとめ	全体の振り返りと学修成果確認のための試験	
	事前学習 60分	教科書1～37ページを復習する	
	事後学習 60分	試験で出された分野について復習する	

講　座　名	担 当 教 員	開講時期
医療事務支援講座Ⅰ	前田（まえだ） 康智（やすとも）	1,2年前学期
受 講 条 件	医療事務・医療事務サービス演習を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要

「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、医療事務の授業内容をわかりやすく解説し、点数算定の方法を整理・復習し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料

教科書	「医療事務サービス論（医療事務）」の授業で使用している教科書
参考書 資　料	社会保険研究所　医科診療報酬点数表　最新版

講座についてのメッセージ

医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題に取り組んでいくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講　座　名	担 当 教 員 名	開講時期
医療事務支援講座Ⅱ	中野（なかの） 都（みやこ）	1,2年後学期
受　講 条 件	医療事務・医療事務サービス演習を履修し、技能認定進行協会が実施する医療事務管理士技能認定試験の受験を前提とする者。	

講座の概要

前期で行った「医療事務の基礎知識」「点数算定とレセプトの書き方」「公費負担医療、その他の制度」について、復習する。「点検」「外来」「入院」レセプト作成が確実にできるよう、練習問題、試験の過去問題などを多く実施し、最終的には医療事務管理士技能認定試験合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料

教科書	「医療事務サービス論（医療事務）」の授業で使用している教科書
参考書 資　料	社会保険研究所　医科診療報酬点数表　最新版

講座についてのメッセージ

医療事務管理士技能認定試験に合格するためには、「医療事務」の授業内容を確実に理解し、練習問題、過去問題をこなし、着実に学習を進める必要がある。本講座では、前期の「医療事務」の授業内容をわかりやすく解説し、一問でも多くの練習問題、過去問題に取り組み、合格に向けての勉強方法も指導していくので、欠席、遅刻、早退のないよう、授業に臨むこと。

講　座　名	担 当 教 員	開講時期
情報技術活用講座	前田（まえだ） 康智（やすとも）	1,2前学期・後学期
受 講 条 件	情報技術（情報技術Ⅰ）受講者、またはビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）・ビジネスワード・ビジネスパワーポイント・情報技術Ⅲ・情報技術Ⅳ受講者で、パソコン操作や資格取得に意欲があり、積極的に取り組む姿勢のある学生を対象とする。	

講座の概要

Microsoft Word,Excel,PowerPointの各機能について、特に難しい操作について、繰り返し練習する。
Wordであれば、特にインデント、タブ、図形の作成について、Excelであれば、特に構成比、関数（順位、四捨五入、検索）の操作について、PowerPointであれば、特にインデント、スライドマスター等の操作についてそれぞれ繰り返し練習する。前学期は情報技術（情報技術Ⅰ）受講者を対象に6～7回程度、後学期はビジネスエクセル（情報技術Ⅱ）、ビジネスワード、ビジネスパワーポイント、情報技術Ⅲ、情報技術Ⅳ受講者を対象に8回程度実施する予定。

教科書・参考書・参考資料

教科書	なし（各授業で使用した資料や教科書を使用し、必要に応じてプリントを配布する）
参考書 資　料	特になし

講座についてのメッセージ

前期については、情報技術Ⅰabの受講者の中で、特に再練習が必要と思われる学生を個別に呼び出し、または個人的に練習を熱望する学生について、それぞれの学生の空き時間を設定して実施する。
後期については、情報技術Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ受講学生に対して、資格支援のために、授業の延長として実施する。

講　座　名	担 当 教 員	開講時期
ファッション資格対策講座	畑（はた） 久美子（くみこ）	1,2前学期・後学期
受 講 条 件	ファッションやアパレル系企業への就職を目指し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」を履修し、「ファッション販売能力検定」または「ファッション色彩能力検定」または「色彩検定」を受験する者。	

講座の概要

検定主催者が提供するテキストと問題集を使用し、「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」で得た知識を復習しながら繰り返し演習を行い知識の定着を図る。過去問題を解き、実際の検定試験対策を確実に行い合格を目指す。

教科書・参考書・参考資料

教科書	「ファッション販売演習」または「カラーコーディネート演習」の授業で使用している教科書
参考書 資　料	適宜授業内で配布、または指示する

講座についてのメッセージ

ファッションやアパレル系の企業への就職を考えている場合、「ファッション販売能力検定」「ファッション色彩能力検定」「色彩検定」などの検定に合格することが望ましい。繰り返し問題を解くことで着実に合格に近づくので、合格への意志を持ち受講に臨むこと。